

**2025 年度**

**議会運営委員会 視察報告書**

**-完全版-**

2026/02/27

# 2025年度 議会運営委員会 視察報告書

## 1. 目的

議案審査時のチェックはもちろん、施策の実行フェーズにおいても、議会としての責務を果たすべく、ミッションの明確化と強化ポイントの解像度を上げることを目的とする。

そのために、矢板市議会ならではの「事業評価から政策提言フロー」のレベルアップ（連続性・持続性・拡大性）への示唆を得るための先進事例研究を行う。

## 2. 期日

2025年12月22日（月）・23日（火）

## 3. 視察地と視察項目

### 1. 長野県駒ヶ根市議会

- ・クールダウンミーティングについて
- ・事業評価について

### 2. 長野県飯田市議会

- ・議会による行政評価について

## 4. 出席者

### 議会運営委員会（6名）

委員長	佐貫 薫	副委員長	石塚 政行
委員	榊 真衣子	委員	神谷 靖
委員	櫻井 恵二	委員	伊藤 幹夫

### 議会（2名）

議長	宮本 莊山	副議長	小林 勇治
----	-------	-----	-------

### 議会事務局（2名）

局長	星 哲也	主幹	清水 ゆう子
----	------	----	--------

---

## 5. 視察先 1. 長野県駒ヶ根市議会

---

### (1) 基礎情報

- ・人口：約 31,000 人
- ・議員定数：15 人
- ・委員会：下記  
総務産業委員会、教育民生建設委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会、  
議会機能向上推進委員会

### (2) ご対応いただいた方々

議長	氣賀澤 葉子 様
副議長	中島 和彦 様
議会運営委員会 委員長	竹村 誉 様
議会運営委員会 副委員長	押田慶一 様
教育民生建設委員会 委員長	今堀 雷三 様
議会機能向上推進委員会 委員	福澤 美香 様
議会事務局 局長	下平 和弘 様
議会事務局 議事庶務係長	池上 英孝 様

### (3) 視察内容

#### 1. クールダウンミーティングについて

---

##### (1) 施策フレーム

###### ① 設置目的

- ・議員間討議の活性化や政策立案に向けた取り組み。

###### ② 現状と課題

- ・議員間討議の活性化や政策立案に向けた取り組みが不足している。
- ・議員間討議の方法等の仕組みができていないことなどから、十分な議論ができていない。

###### ③ 解決策

- ・意見交換による議員間討議のきっかけづくり（仕組みづくり）を実践。

#### ④ コンセプト

・「議員間討議」という言葉は難しい、もっと気楽な意見交換がしたいという思いを込められている。

### (2) 施策実施スキーム

#### ① 目的

どのような視点で審査したか、審査を通じてどのような感想を持ったかなどをお互いに認識する機会とする。

#### ② 実施時期

令和5年9月より開始。9月（決算）および3月（予算）の特別委員会終了後において試行。

#### ③ 実施日

特別委員会 各日審査終了後 30分程度。

#### ④ 内容（1日の反省会的イメージ）：

- ・各部課の説明（事業内容・成果・課題）で感じたこと。どのような視点（思い）で質疑したのか。
- ・その他（会議の進行方法など含め）

#### ⑤ ルール

- ・進行は議会機能向上推進委員長が行う。
- ・相手を侮辱する発言、感情的な発言、否定する発言はしない。
- ・相手の立場に立ち、それぞれの考えを理解した上で発言する。
- ・案件に対するメリット、デメリットなどの共通認識を深める（結論を出す場ではない）。

## 2. 事業評価について

---

### 平成29年度から令和5年度までの、委員会ごとの主な抽出テーマ（事業名）

H29: 財産活用管理事務、観光推進事業、文化センター管理運営事業

H30: 信州駒ヶ根ハーフマラソン、子育て支援策

R1: 地域公共交通の確保、道路改良事業、エル・システム事業、健康づくり習慣の普及など

R2: 6次産業化事業、テレワーク推進事業、福祉企業センター事業

R3: 観光事業、児童福祉総務管理事務事業、自立支援事業など

R4: 地域おこし協力隊事業、社会福祉協議会運営補助、民生委員会運営事業など

R5: 移住・定住の促進、激甚化する災害への対策強化、水道事業会計、子ども交流センター運営事業など

### 3. 令和6年度から新たに開始された「ツキニミーティング」

---

#### ① 事業評価から展開した背景

7年間実施してきた個別事業への事業評価から、視座を上げて全体俯瞰から総合戦略のチェックを行うとともに、そのチェックの際に市民の方々との対話機会も増やす活動へ移行された。

#### ② 目的

予算・決算の前後検証に向けて施策の「現在地」を横断的に把握し、必要に応じて要望・提言を行う。

#### ③ 頻度・形式

原則月2回、対面またはオンラインで実施。

#### ④ 場所

可能な限り市役所以外で開催。

#### ⑤ ルール

沈黙歓迎、服装自由、結論が出なくてもOK、自分の意見を変えることを歓迎する。

#### ⑥ テーマ

H29～R5 事業評価の再検証、総合戦略のKPI確認。

行政視察先をテーマにした現状・課題の把握。

### 【矢板市議会に活かせる観点・具体策】

---

#### 委員会後での合意形成プロセスの導入

公式な場での意見対立を次へ持ち越さない仕組みとして、短時間でも振り返りの場を持つことは、議員間の円滑なコミュニケーションに寄与する。まずは委員会の終了後など、試行的導入を検討する意義は大きい。

---

## 5. 視察先 2. 長野県飯田市議会

---

### (1) 基礎情報

- ・人口：約 93,000 人
- ・議員定数：23 人
- ・委員会：  
総務委員会、社会文教委員会、産業建設委員会、議会運営委員会、予算決算委員会、  
リニア推進特別委員会、広報広聴委員会、議会改革推進会議

### (2) ご対応いただいた方々

議長	竹村 圭史 様
社会文教委員会 委員長	下平 恒男 様
議会事務局 局長	筒井 雄二 様
議会事務局 調査係長	清水 崇良 様

### (3) 視察内容

#### 1. 「議会による行政評価と政策サイクルの構築」について

---

##### (1) 視察目的

飯田市自治基本条例を起点とする「市民の意志を反映した政策サイクル」を調査し、本市における行政監視機能の強化と、エビデンスに基づいた政策提言の仕組みづくりを検討する。

##### (2) 施策フレーム

###### ① 行政評価の活動アウトライン

飯田市議会では、議会が「市民の代表」として行政の仕事を評価し、それを次年度の予算に反映させる独自のサイクルを確立されている。

###### ② 議会独自の行政評価システム

評価主体：3つの常任委員会（総務、社会文教、産業建設）が主体となる。

評価対象：飯田市基本計画の主要施策に基づき、各委員会が重点項目を選定。

評価手法：執行部からのヒアリングに加え、現地調査、市民との意見交換会（議会報告会）で得た「現場の声」を判断材料とする。

### ③「決算」から「予算」へつなげる政策サイクル

飯田市議会の最大の特徴は、PDCA サイクルを明文化し、議会運営に組み込んでいる点。

さらに改選での議員の入れ替えなどが発生しても継続し得る形式知の積み重ね、および事業継続・推進構造にある。

**Check (決算)：** 9月の決算審査に合わせ、常任委員会が行政評価を実施。事業に対し「継続・改善・再構築」等の評価を下す。

**Action (提言)：** 評価結果を「決算審査報告書」としてまとめ、市長に対して「予算編成に対する提言書」を提出する。

**Plan (予算)：** 12月～2月の予算編成過程において、議会の提言がどの程度反映されたかを執行部が回答。反映されない場合は、3月の予算委員会でその理由を質疑する。

### ③ 市民参画との連動

議会報告会を起点とした政策づくり： 市民から寄せられた意見を委員会で検討し、行政評価の視点に加えることで、「市民の声」も反映した評価を実現している。

## 【矢板市議会に活かせる観点・具体策】

---

### 1. 決算審査の「質」の転換

現在の決算審査を「数字の確認」に留めず、飯田市のように「翌年度の予算にどう活かすか」という評価の場に転換する必要がある。まずは特定の重要事業に絞り、委員会単位での行政評価を試行することなどを検討していきたい。

### 2. 予算編成に対する提言の仕組みの構造化

議会（委員会）として公式な「予算編成に対する提言」を行う仕組みを構築することで、二元代表制における議会の存在感を高め、執行部との建設的な関係を構築できる。

### 3. 「エビデンス（証拠）」に基づく議論の徹底

飯田市議会では、議会報告会での市民の意見を評価の根拠（エビデンス）としている。本市議会においても、市民からの直接的な声を収集し、それを委員会での事業評価基準に加えるなど明文化する仕組みが必要である。